



一般社団法人 大日本武徳会

会 報 **武 徳**

2025.4 春季号



宇宙は素より天壤無窮の無限の世界である。そこに存在している全てのものが奇跡の恵みであり形而上学的な領域を超越した空間が永遠に広がる。

天空からの太陽光線は太陽風となり光の速さで八分十九秒かけて地球に到達する。しかし太陽核内部で生成された光子がエネルギー熱として太陽表面まで到達するのに十七万年かかる。それは丁度人類ホモサピエンスの誕生の時期になる。即ち我々はその無限に近い過去に生まれた核エネルギーで日々生かされている。日昇る国に燦燦と注がれる光線は新年を迎えた日本の夜明けに新しい希望の光をもたらす。

本年は大日本武徳会の創立百三十周年を記念して世界十五ヵ国からの武道家が京都旧武徳殿に集結し第七回世界武徳祭と第六十三回全国武徳祭が開催される。さらに終戦八十周年の歴史的節目に世界平和祈願碑を京都武道センターに設置する。その誉ある大会で満身の氣力を込めた本会の武道演武の神髄はいかなる感動の渦を生み出すであろうか。世界平和祈願碑に込められた共存共栄への祈りの力が地球という隔たりのある世界から無限の世界に飛翔していく様を共に共有出来るであろうか。文武一徳を掲げる本会はその道をもつて志道とし現在と未来に向けてひたすら努力しなければならない。本会の誇り高き存続と発展は会員一人一人の無限の可能性に立ち向かう武徳への決意によって大きく変化していく。

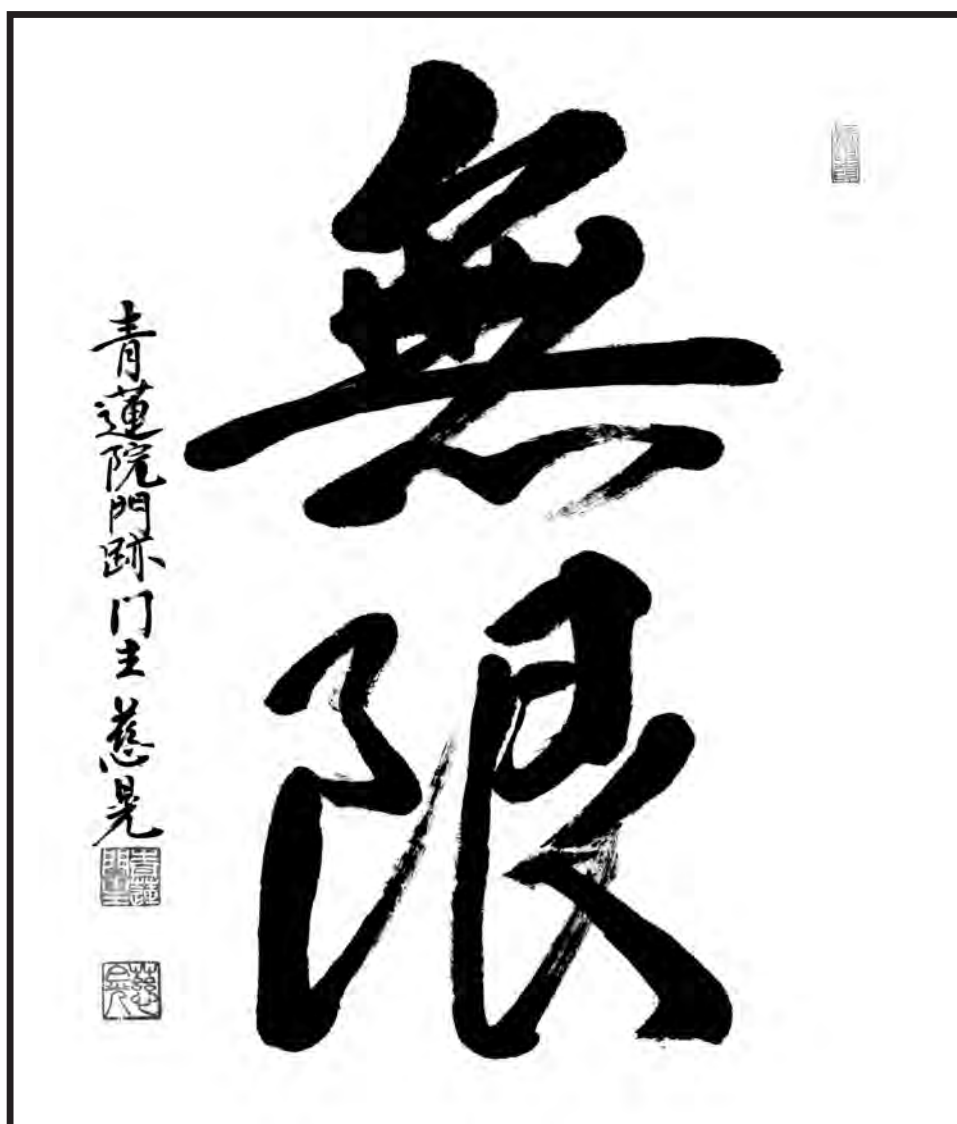
濱田鉄心

写真：Pixta No.73962439

一般社団法人 大日本武徳会



総裁 東伏見 慈晃



新年の期待と希望

代表理事

濱田 鉄心

平素は本会の発展のため献身的なご協力と格別なご厚情を賜り心から感謝申し上げます。

今年は巳年ですが、元来十二支は古代中国の思想が起源で、もともとは動物ではなく四季折々によって変化する植物の成長状態を表現した言葉が変化して漢字の音や音韻が似た動物を当てはめたという説があり、巳の原義は「シ」、止むと読まれ植物の成長盛隆が極限に達した様を表現する意味があります。元来中国古代史文化における言葉は象形文字がその根幹になっており巳は胎児の姿を表し、過去から脱皮して変化するという意味もあるようです。巳は動物に当てはめると蛇になりますが、それが自然神の神格となり古代信仰の対象として今も引き継がれていることは十二支の歴史的所以です。いずれにしても過去があつて現在、未来があり、その因果関係は複雑多岐に渡っております。ならば巳年の歴史で日本と本会にとって何が起きたか少し振り返ってみますと、六四五年 大化の改新、一一八五年 平家が壇ノ浦で滅亡、一六〇五年 徳川家康が秀忠に將軍を命じて天下統一、一九〇五年 日露戦争の勝利、一九一七年 第一次世界大戦参戦、一九四一年 太平洋戦争突入、一九五三年 朝鮮戦争終結と大野熊雄初代会長が大日本武徳会任意団体設立、一九六五年 武徳会アメリカ支部設立、一九八九年 昭和天皇崩御、平成時代の始まり、二〇〇一年 二十一世紀の始まり、カナダ武徳祭、二〇一三年 本会が法人化して一年目に日英同盟百十周年記念で英国武徳祭をロンドンで開催といったような出来事がありました。

二〇二五年は本会創立百三十周年で第七回世界武徳祭を開催、太平洋戦争終結八十周年で世界平和祈願碑を京都武道センターに設置、グローバル

な武徳の価値観と日本伝統武道の世界的祭典として位置づける、という企画がなされています。

しかしながら今後は米国大統領のトランプイズム再来で排他的な世界秩序の変革、分断、矛盾、混乱が予測され、同時に巳年は多様な意味で世界的に大きな社会変化が予測されます。人類の持てる者と持たざる者の格差も一段と深刻になると思われます。さらにAIによる科学技術革命が一段と加速し人間性の尊厳が脅かされる時代が到来するかもしれません。特に巳年は過去の例を紐解いてみた時、二〇〇一年のアメリカ同時多発テロ事件のように予期せぬ恐怖や紛争や変革が押し寄せた事実もあり、世界を揺るがす同様の事件・事故・天災などの事態も想定され、それに対する決断と選択が迫られます。目まぐるしい変化変動に押しつぶされないためには自らが先をとって自然体で変化し続けなければなりません。巳年は脱皮を繰り返して成長する蛇のごとくへこたれない再生を意味する吉兆でもあります。即ち次への成長を待つて力量を準備している状態を示します。植物が著しく伸び切った成長をさらに次の段階に持ち上げるための臥薪嘗胆挑戦の時期です。過去の失敗、失策、挫折や反省をもとにして新たな再生、成長に変えることが出来る機会になること、我々が恐れず情熱的に勇気をもって挑戦していくことで新しい活路を見出す年になることを祈らずにはおれません。

私達が最も期待するのは本会の主催行事と後援行事が全て無事成功裡に終わること、そしてその輝かしい成果を貴重な礎として会員の皆様に次への希望の力となることです。私達は伝統武道の保存継承を掲げて内外の同志と力を合わせ百三十年の歴史を積み重ねてきました。多くのご高名な先達の先生方が残された武徳の精神と誇りを次の世代に引き継いでいくにはすべての会員の皆様の絶大なご協力とご理解が必要ですので何卒ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様のご健勝とご多幸と未来の本会の発展を切に祈ります。



第十二回定時社員総会 及び
第十六回武道執行専門委員会

日時 令和七年一月十九日（日）

場所 京都東急ホテル

第十二回定時社員総会の報告

令和七年一月十九日（日）午後一時より京都東急ホテル祇園の間において一般社団法人大日本武徳会第十二回定時社員総会が開催された。出席正社員は委任状提出者六十五名を含む八十七名により定時社員総会は成立した。一般社団法人法に則り本会定款と内規に従って左記の通り報告事項並びに決議承認事項について報告します。

記

第一号議案

二〇二四年事業報告及び収支決算報告の件
（二〇二三年十一月一日から二〇二四年十一月三十日まで）
原案どおり決議承認された

第二号議案

二〇二四年会計監査報告の件
原案どおり決議承認された

第三号議案

二〇二五年主催事業計画の件
原案どおり決議承認された

第四号議案

二〇二五年収支予算書の件
原案どおり決議承認された

第五号議案

役員選出承認の件
理事選任
濱田博之（鉄心）、竹田豊、上村雅彦、中田浩大、藤井正巳、
山田文典の六名が再任された

第六号議案

新しく松村則夫が理事に選任された
渡邊佳代子は退任した
監事選任
坂本俊一、平松男が再任された

新役員就任挨拶の件

新しく選任された役員から就任の挨拶がされた

第七号議案

第十六回武道執行専門委員会の具体的な内容が各担当委員から
された

第八号議案

二〇二五年創立百三十周年記念主催事業及び後援事業について
報告がされた

第九号議案

内規改正報告事項について説明がされた

第十号議案

組織統制委員会及び理事会の決議報告の件
国際部規約違反及び内規施行規則違反により国際部正会員一名、
内規施行規則違反により正会員二名の処分結果とその処分理由
が報告された

その他、会報編集報告、ピースモニュメント世界平和祈願碑の趣旨説明及び設置概要、今後の全国武徳祭の広報や世界武徳祭の実施にかかる改正方針等が述べられた

以上

一般社団法人 大日本武徳会

理事 山田 文典

第十六回武道執行専門委員会の

開催結果報告

一般社団法人大日本武徳会

監事

坂本 俊一

令和七年一月十九日、京都東急ホテルで行われた第十二回定時社員総会に先立ち、一般社団法人大日本武徳会第十六回武道執行専門委員会が同ホテル「鞍馬の間」において開催されました。

委員会は、濱田鉄心武道執行専門委員会委員長以下二十四人が参加し、午前十時、進行役の山田先生の司会で始まりました。

国旗・武徳会旗に対する礼の後、まず委員長の挨拶があり、その後示された議題に従って委員会は進行されました。

委員長挨拶では、濱田鉄心委員長から「世界大会では五百人近い人が武徳殿に集まり、また周囲には観光客も多いので、ルールを守るために如何にコーディネートションするかが肝要」との言葉があり、更に「進行委員は統制・秩序ある動きと連携について、管理委員は外部からの写真撮影などすべての領域に如何に目を光らせるかについて、検証委員は無事・安全に終わらせることと有事の際の対応について、それぞれしっかりと検討してほしい。」旨の検討会の協議項目が示され、その後各委員会に分かれて問題点などの検討協議が行われました。

約一時間の活発な検討協議の後、各委員長から発表がありました。

一、竹田検証委員長

- ・ガム、サングラス、着物の乱れ等、服装・風紀上の乱れをなくす
- ・有事の際、全員を止めるかの判断は本部で決めて指示する
- ・交代時間の厳守

二、山田管理委員長

- ・参加者、特に招聘団体に対し、事前に厳粛な姿勢を保つよう徹底する
- ・外国人にも分かるよう、目立つような注意喚起をどうするか
- ・無線機などを活用し、階段の下を最終防衛ラインとして規制していく

三、上村表彰委員長

- ・表彰物品を間違わないように明確な表記・管理
- ・進行との連携を徹底する

四、平進行副委員長

- ・入退場要領を明確に説明する
- ・配置と武具の確認
- ・全体の流れの早期把握

検討会の後小休止を挟み、塩田事務局長から二〇二五年度本部主催行事について発表があり、特に四月二十五日から三十日までの世界大会前後の行事に関する説明がありました。

そして、最後に濱田鉄心委員長から「今後、世間に開かれた武徳会を目指すべく、来年の全国武徳祭を如何に、またどの程度一般公開するかを検討していきたいので、各武道執行専門員が中心となり真剣に検討してほしい。」との将来につながる指示・説明があり、国旗・武徳会旗に対する礼で、閉会しました。

私見ではありますが。今回の武道執行専門委員会は、時間が足りないほど熱心な検討会であつたということ、今後の武道執行専門委員会の課題が示されたことに、大きな意味のあつた委員会でありました。

以上

第12回 定時社員総会



第16回 武道執行専門委員会



懇親会





創立129周年記念 嚴島神社奉納 古武道演武大会



日 時：令和6年9月8日（日）
午前10時30分～

場 所：嚴島神社「祓殿」

主 催：一般社団法人 大日本武徳会

後 援：広島県教育委員会

大会次第

◎ 厳島神社本殿拝殿において祈願 午前10時30分より

玉 串 拝 礼 濱 田 鉄 心

◆◆◆ 開 会 式 ◆◆◆ 午前11時

司会進行 大会進行委員長 藤 井 正 巳

- | | | |
|---------------|---------------|-------------|
| ① 開 会 宣 言 | 検 証 委 員 長 | 竹 田 豊 |
| ② 開 会 挨 拶 | 大 会 委 員 長 | 濱 田 鉄 心 |
| ③ 大 会 祝 辞 | 来 賓 | 元広島県議会議員 長宏 |
| ④ 演 武 上 の 注 意 | 管 理 運 営 委 員 長 | 山 田 文 典 |
| ⑤ 祓 い の 儀 | 居 合 道 範 士 八 段 | 伊 藤 學 |

◆◆◆ 演 武 ◆◆◆

*時間の都合上、演武時間は入退場を含め7分以内とする。

◆◆◆ 閉 会 式 ◆◆◆

- | | | |
|-----------|-----------------|---------|
| ① 納 め の 儀 | 居 合 道 範 士 八 段 | 山 田 文 典 |
| ② 講 評 | 検 証 委 員 長 | 竹 田 豊 |
| ③ 閉 会 挨 拶 | 大 会 委 員 長 | 濱 田 鉄 心 |
| ④ 閉 会 宣 言 | 管 理 運 営 副 委 員 長 | 坂 本 俊 一 |

大日本武徳会創立百二十九周年記念 厳島神社奉納古武道演武大会 実施結果報告

一般社団法人大日本武徳会
監事 坂本 俊一

令和六年九月八日 広島県宮島の厳島神社国宝「祓殿」において、大日本武徳会創立百二十九周年記念奉納古武道演武大会が盛大に開催されました。

本大会にあたっては代表理事濱田鉄心先生が自ら陣頭指揮をとられ、またご来賓として広島県議会議員松山俊宏先生と株式会社マルニ木工の山中好文相談役にご臨席賜りました。開催にあたり厳島神社の野坂宮司、広島県教育委員会を始めとする関係各位には多大なご支援とご協力をいただき、丸一年の様々な調整・準備を経て、大会開催の日を迎えるに至りました。

また、事務局は神社側と折衝を重ね、山田理事による事前現場確認と神社側との直接協議、数名の管理運営委員による前日現場確認など、入念に準備を重ねました。

その結果、全国から集まった参加者は百名以上に上り、青少年も含めて盛大に大会の開催を迎えることができました。

九月八日午前八時三十分、快晴の中、開門とともに続々と演武者が会場入りし、午前十時三十分、厳島神社「拝殿」において伝統的で厳かな祈願参拝を執り行いました。

その後、演武者は全員隣の「祓殿」に移動・整列し、写真撮影の後、午前十一時から開会式が執り行われました。まず竹田理事による開会宣言の後、濱田代表理事による開会挨拶、ご来賓を代表しての松山先生のご挨拶、山田理事による演武上の注意が順次行われ、最後に伊藤學先生による祓いの儀が披露されました。祓いの儀の後、奉納演武が開始され、まずは青少年による居合道や空手道の清々しい演武が続きました。そしてその後は大人を中心とした居合道、空手道、合気道、剣術、古武道、體術、合気柔術、巻藁試斬等の演武が次々と行われました。

多くの外国人を交えた一般の観光客や参拝客が見守る中、また会場の都合で大きな気合を発することが抑制されるという条件の中ではありますが、演武者は

その気合を内に秘め、素晴らしい演武を奉納いたしました。

演武の進行は途切れることなくスムーズに進み、途中演武者は適宜の休憩と昼食をとりつつ休憩場所と拝殿を行き来していましたが、管理運営に当たった担当者、隠れた努力もあり一般参拝客との目立ったトラブルもなく、予定時間より少し早めの午後二時三〇分頃すべての演武が滞りなく終了し、山田理事による納の儀が行われました。

そして、閉会式が執り行われ、竹田理事による講評、濱田代表理事による閉会の挨拶の後、坂本監事による閉会宣言により、すべての大会行事が無事終了いたしました。

今大会では、演武会場である「祓殿」周囲を一般の参拝客が自由に移動する中で演武であったことから大きな気合の禁止が事前通達され、また世界遺産である建物自体に傷をつけるようなことが絶対にあってはならないという厳しい条件の下での奉納演武大会であったことから、演武者はそれらの規則に対して極力努力していったと思います。大会を通じて演武者の目付、残心など静なる気合の籠った素晴らしい演武の連続であったと感じました。

今回の厳島神社奉納演武大会は本部主催として初めて実施された大会であったことから、今大会の反省点を十分に抽出・検討し、次回の大会を更に有意義な大会にすべく役員、担当者一同一層尽力してまいります。この書面をお借りしてご参加いただきました皆様方のご協力とご支援を賜りましたすべての皆様に厚くお礼申し上げます。

御礼の御挨拶

創立129周年記念厳島神社奉納古武道演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。
ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会 参 与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御 芳 名	
濱 田 鉄 心	様
竹 田 豊	様
山 本 楠 城	様
山 田 文 典	様
市 村 章	様
藤 本 准 三	様
伊 藤 學	様
北 川 茂	様
田 中 悠 樹	様
坂 本 俊 一	様
石 本 一 平	様
松 道 流 松 栄 館	様
西 村 義 行	様
中 野 秀 人	様
正守和道塾 上村雅彦	様
村 山 盛 哲	様









厳島神社奉納古武道演武大会の感想

北陸連盟修童館 戸田 赳朗

九月八日に開催された厳島神社奉納古武道演武大会に参加させていただきました。

厳島神社という歴史ある場所において居合の演武ができたことは、武術に邁進する私にとって生涯忘れられない貴重な経験となりました。特に、海外からの方々に前に演武するという機会が今までなくとも緊張しましたが、日頃の稽古の成果を発揮できるよう一振り一振りに魂を込めて演武し、最後までやり終えた時にはすごい大きな達成感を感じることができました。

また、先生方の演武では、それぞれの武術や流派が持つ特徴や力強さを改めて感じることで、自分自身の課題も明確になりました。そして、今後も稽古にて技を磨き続けていき、先生方のような力強く、美しい居合をしたいと強く想い、稽古へのモチベーションがさらに高まりました。

今回の経験を糧に、より一層精進し、武術家として成長していきたいと考えています。

厳島神社奉納古武道演武大会

祈りの場所での演武

弓刀錬心館道場 師範代 浦上 則國

この度は、国宝・世界遺産「厳島神社」において開催された、「創立百二十九周年記念 厳島神社奉納 古武道演武大会」に参加することが叶い、光栄の至りに存じます。本大会の開催に向けてご尽力くださいました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

今回私は、虚心流居合剣法の組太刀の演武と共に大会検証委員の御役もいただき、緊張感をもって当日を迎えました。

好天にも恵まれ、海からの風が心地よく吹き抜ける「祓殿」には、多くの参拝者や観光客がおられました。そのような周りの目も気にならない程、厳肅な空気がその場所には漂っていました。

神社の境内、それも本殿（拜殿）の眼前にある祓殿での演武であり、他の場所とは異なる配慮が必要となるため戸惑いもありましたが、推古天皇によって創建されて以来、一四〇〇年以上もの間、祈りの場所として守られてきたこの場所で演武することが許されたことが、大変な喜びでありました。今後もこの思いを胸に、稽古に励んで行きたいと願っております。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

虚心流居合抜刀術 国廣 清孝

この度は、厳島神社奉納古武道演武大会に参加させて頂き、ありがとうございました。国宝、そして世界遺産でもある厳島神社の祓殿で演武をさせて頂けることに、畏敬の念を抱きつつ臨ませて頂きました。

当日は、汗が止まらないほど残暑が厳しい日ではございましたが、自分の番になり祓殿に入ると暑さを忘れる程の緊張の中、無事に演武を終える事が出来き、貴重な体験となりました。

また、関係者の皆様には演武の準備などいつもご尽力いただきまして心より感謝申し上げます。

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

天然理心流 竹内 裕美

初めて伺った厳島神社が、武徳会での神前奉納武術披露という事、大変光栄でした。武道を通し「心身強くある」というところから、唯一無二の「自分を生きる」という「自分軸」を太くし、天地を結ぶ人「天人地」として神の前で日頃培った成果をお見せできることは、魂の成長をお見せ出来る機会として、心からの誉です。こういう機会を頂けることで、今後の向上意欲を持ち帰り、今後も一層稽古に励みたいと思わせていただけることが何よりの土産です。ありがとうございました。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

一心無双流居合道剣心会 小中 祐治

この度、創立百二十九周年記念厳島神社奉納古武道演武大会が盛大に執り行われましたことを心よりお喜び申し上げます。

この伝統ある厳島神社祓殿において、代表理事濱田鉄心先生や大会役員の先生方、本大会に参加された各団体の先生方に加えて、多くの一般参拝者をご覧になられている中で演武できたことは、これからは修練を重ねていく上で、大変意義のある経験になりました。

本大会では管理運営委員の役も仰せつかり、大会の円滑な運営と事故防止、秩序維持に努めました。

当日は、日本国内のみならず海外からの参拝者も多く、言葉が伝わらない中、身振り手振りを交えながら、演武を見学される方によって通行が妨げられ、参拝

者にご迷惑が掛からないよう、スムーズな誘導を心掛けました。

結果、大きな問題もなく無事任務を終えることができ、安堵しております。管理運営委員の任務を通して、組織や大会運営における個々の役割の重要性・必要性を改めて実感いたしました。

今後は、自身の修練や各種演武会へ参加だけで満足することなく、大会運営にも携わることで、自己の成長を図り、日本伝統武道と一般社団法人大日本武徳会の発展に貢献すべく、更に高いレベルの武道家を目指し、日々精進を重ねて参ります。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道大会に参加して

松道流護身武道松栄館 野川 栄一 相久

創立百二十九周年記念厳島神社奉納古武道大会は、海上に建つ大鳥居から海を渡って祓殿、拝殿、幣殿、本殿と配置される厳島神社の「祓殿」において古武道演武が奉納されました。

世界遺産である厳島神社にて、松道流護身武道松栄館は演武を奉納する機会をいただきました。この機会は当流において大きな出来事であり感謝に堪えません。厳島神社奉納古武道大会は、一般社団法人大日本武徳会本部による第一回目の開催で、この大会に自流の體術の基本技、天之卷上段之位十二本を奉納いたしました。初めて参加する門人との演武は、新鮮であり、予期せぬ本物の技の出現でヒヤリとする場面などもありました。演武を終わってみると充実感に浸っておいりました。

参加された各流各派の皆さまの活気と迫力ある演武を拝見し、我々の心にも新たな情熱が灯りました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

百錬会 日新館 川村 幸一

この度、厳島神社奉納古武道演武大会に参加しました。平成二十五年の大会に参加して以来ですので、十一年ぶりの参加になります。

当日の天気は晴れ。海から風が吹いていたこともあり、祓殿は、少し暑さが和らいだと感じました。

演武を観て、青少年たちが、元氣よく、大きな声で、演武していたことが、格好良くて、頼もしく思いました。

私自身の演武は、遅速・緩急・強弱のある体の動き及び剣運。身体に氣力を充実させた残心。そして格調高き品位と風格のある演武を心掛けました。

最後に、今大会の役員の方々には、暑い中、大変お世話になりました。ありがとうございました。

厳島神社奉納古武道演武大会を終えて

一般社団法人大日本武徳会 理事
一心無双流居合道剣心会 総師範

山田 文典

大日本武徳会創立百二十九周年記念 厳島神社奉納古武道演武大会が盛會に開催できましたことを心からお祝い申し上げます。

また、今回、管理運営委員長の大任を仰せつかり、諸先生、参加皆様のご協力のお陰で事故なく目的を達成できましたことに厚く御礼申し上げます。

開催当日は、前週に大型台風が西日本を迷走し、通過後の猛暑が戻った厳しい環境となりましたが、時折、爽やかな潮風が会場を吹き抜ける心地よさも感じられ、本部先生方のすばらしい演武が繰り広げられ心に残る大会となりました。

当初は、時期的にも参加者が少ないのではと心配しましたが、ご当地広島はもとより日本各地から遠路ご参加賜り感謝する次第です。

本会が主催する大会となり管理運営面では、予想を遙かに上回る参拝客があり、会場周辺での混雑防止に奔走したり、厳肅な会場での秩序維持にも課題の残るものとなりました。しかしながら心配した暑さによる気分不良や、演武者の負傷事案なく無事終了したことで安堵しております。

この成功の勢いを来年開催される第七回世界武徳祭へ向ける大きな意義ある大会となったと思います。先生方、引き続きご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会 中村 充伸

世界遺産の厳島神社での本部における第一回目の奉納演武大会という貴重な機会を与えて頂き、誠にありがとうございました。

私個人と致しましては、第六十二回全国武徳祭に続き二回目の演武となりますが、一緒に演武させて頂きました当会先生や先輩に遠く及ばずまだまだ心身の鍛錬や技が不十分で合気要素の薄い柔術主体のレベルではありましたが、心を込めて演武させて頂きました。普段では拝見することも叶わない団体流派の異なりま



大会終了後、当会参加剣士と大鳥居を背にして

す各先生方の日頃の研鑽と鍛錬がこもった気迫溢れます演武を拝見させて頂き、改めて自身の未熟さを痛感致しますとともに、継承の強い思いを胸に今後とも一層稽古に精進し続けていくとの思いを深く致しました。誠にありがとうございます。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

一心無双流居合道剣心会

荒木 咲紀

この度は、一般社団法人大日本武徳会創立百二十九周年記念厳島神社奉納古武道演武大会が盛大に開催されましたことを心からお慶び申し上げます。厳島神社国宝「祓殿」において演武を行うという素晴らしい経験をさせていただきましたこと厚く御礼申し上げます。

荘厳な素晴らしい舞台で日頃の鍛錬の成果を存分に発揮することができ、様々な流派の演武を目にすることができた有意義な時間となりました。流派の垣根を越えて交流することで、貴重なつながりをつくることができました。

さらに、外国の方々が大変熱心に演武をご覧になっていたことから、古武道は日本の誇れる文化であることを改めて実感いたしました。古武道の奥深さを国外にも積極的に発信していきたいです。

最後に、大日本武徳会の一層のご発展を祈念致しまして、結びの言葉と致します。

創立百二十九周年記念

厳島神社奉納古武道演武大会に参加して

一心無双流居合道剣心会

村上 貴美

厳島神社奉納古武道演武大会に参加させていただきました。動きの遅い台風十

号により大会に影響が生じないかと心配な日々を過ごしておりましたが、その心配は杞憂に終わり、また当日は晴天に加えて海からの心地よい風もあり、素晴らしい天候となりました。申し分のない天候のもと、国宝である厳島神社での演武大会に参加させていただけることに感謝しつつ、日頃の稽古の成果を発揮できればと気持ちを締め、演武に臨みましたが、思うようには出来ず、益々稽古に励まねばとの思いを新たにいたしました。また、他の武道、流派の先生方の、漲る活力、静寂を感じる立ち居振る舞い、圧倒されそうな気迫を感じる演武を間近で拝見し、古武道の精神を教えていただいたように感じました。

今回感じたことを忘れずに、これからも稽古に励んでまいります。





第32回 平安神宮奉納 古武道演武大会



日 時：令和6年10月27日（日）
午前10時30分～
場 所：平安神宮「額殿」
主 催：一般社団法人 大日本武徳会

大 会 次 第

◎平安神宮祈願参拝

午前10時30分より

玉 串 拝 礼

濱 田 鉄 心

◆◆◆ 開 会 式 ◆◆◆ 午前11時

司会進行 大会進行委員長 中 田 浩 大

- | | | |
|---------------|----------|---------|
| ① 開 会 宣 言 | 大会進行委員長 | 中 田 浩 大 |
| ② 開 会 挨 拶 | 大会副委員長 | 竹 田 豊 |
| ③ 演 武 上 の 注 意 | 大会検証委員長 | 山 田 文 典 |
| ④ 祓 い の 儀 | 居合道 教士七段 | 石 本 一 平 |

◆◆◆ 演 武 ◆◆◆

*時間の都合上、演武時間は7分以内とする。
試斬り並びに弓術・古武術も7分以内とします。

◆◆◆ 閉 会 式 ◆◆◆

- | | | |
|-----------|----------|---------|
| ① 納 め の 儀 | 居合道 教士七段 | 松 村 則 夫 |
| ② 講 評 | 大会進行副委員長 | 上 村 雅 彦 |
| ③ 閉 会 挨 拶 | 大会委員長 | 濱 田 鉄 心 |
| ④ 閉 会 宣 言 | 大会進行委員長 | 中 田 浩 大 |

第三十二回 平安神宮奉納 古武道演武大会 実施結果報告

一般社団法人大日本武徳会
監事 坂本 俊一

令和六年十月二十七日 京都平安神宮「額殿」において、第三十二回平安神宮奉納古武道演武大会が開催されました。

本大会は、来年度実施の第七回世界武徳祭までで最後の本会主催行事であることから、これまで過去三十一回の大会歴を誇る本大会ではあるものの、大会関係者及び参加者一同がこれに奮ることなく、基本に立ち返り且つ謙虚な姿勢で臨んだ大会でした。その結果、部分部分の反省事項は散見されたものの、大会進行も概ねスムーズに推移し、また大きな事案や問題も発生を見ず、各参加者にあつても非常に緊張感のある素晴らしい演武を披露され、総じて素晴らしい大会となりました。

大会に先立ち、平安神宮本殿において祈願参拝が実施され、午前十時五十分ごろに額殿前で写真撮影の後、午前十一時、定刻どおり開会式が執り行われました。開会式は、大会進行委員長の中田理事の司会で進行し、まず本殿及び国旗・武徳会旗に対して礼をした後、大会副委員長の竹田理事による開会挨拶、大会検証委員長の山田理事による演武上の注意があり、最後に大会進行副委員長の上村理事らによる礼式の具体的な説明がありました。この礼式の説明によりその後の演武における礼式が統一され、結果、全体として非常に締まった演武大会となりました。最後に、日本古武道直心会の石本一平先生による流れるような「祓いの儀」が執り行われ、開会式を終了いたしました。

演武内容は、青少年の演武も含め、礼式に則った素晴らしい演武の数々でした。また、演武の時間は各自（各組）それぞれ7分と決められていましたが、今大会においては時間超過する演武は認められず、また演武の順番を入れ替えるような問題や怪我などの特異事案も発生せずスムーズに進行したことから、予定より三十分近く早く、午後二時三十分にはすべての演武が終了いたしました。

すべての演武が終了した後、閉会式が執り行われ、まず理法塾の松村則夫先生による気合の籠った「納めの儀」が披露されました。その後一同整列し、上村理

事による講評、大会委員長の濱田鉄心代表理事による閉会挨拶が行われ、本殿、国旗・武徳会旗に対して礼をして、大会を閉会いたしました。
今大会では、前述のとおり礼式を事前に具体的に説明したことから、青少年も含め各々の演武に締まりがあったと感じました。更に、検証委員や外周の警戒に当たった管理委員の皆さんも適宜的確に動いていただき、その結果事故なく無事大会を終えたことが何よりでした。

この書面をお借りして、大会前から関係者との協議や諸準備でご苦勞を掛けた事務局や検証委員・管理運営委員・進行委員など大会の運営にご協力くださった皆様、早朝から設営に従事いただいた皆様、そして大会に参加いただきました皆様の方々には心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

来年の世界大会においても、今、平安神宮奉納古武道演武大会のように素晴らしい大会が運営できますことを心から祈って、報告いたします。

以上

御礼の御挨拶

第32回平安神宮奉納古武道演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。

ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会 参 与

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御 芳 名	御 芳 名
濱田 鉄心 様	竹田 豊 様
中田 武太 様	山本 楠城 様
坂本 俊一 様	石本 一平 様
伊藤 學 様	松道流松栄館 様
山田 文典 様	中野 秀人 様
小松 秀敏 様	平林 裕蔵 様
北川 茂 様	大阪修武会 様
渡邊 勉 様	村山 盛哲 様
樋口 友視 様	山川 正 様
田中 悠樹 様	上村雅彦 正守和道塾 様
神和会 様	

平安神宮奉納古武道演武大会に参加して

誠道館虚心流居合剣法

山本 勇

この度、第三十二回平安神宮奉納古武道演武大会が盛大に開催されましたとを、お喜び申し上げるとともに、運営等に当たられた代表理事をはじめ、各本部役員先生方のご苦勞と、ご努力に対して心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

私は、微力ながらも本大会の管理運営委員の委嘱を受けて参加させていただきました。各先生方の全身全霊で、己の誠を奉げる演武が続いた見事な大会であつたと思います。演武会場周辺の見学者の姿勢や態度も概ね秩序正しく感じられ、管理運営委員の一人として胸をなでおろしている次第です。

ただ、演武会場が広くないこともあつて、検証委員の指定席の位置が演武者に近接し、やや危険を感じられた場面がありました。私は咄嗟に任務中の検証委員にお声掛けしましたが、検証委員の先生も流石で、これに素早く対応しておられ、これも日頃の修練の賜物であらうと感じられる一幕でありました。

奉納演武大会は、神様に日頃培った演武を見ていただき、楽しんでいただくという意味ある大会であると心得ます。この栄えある奉納演武大会に参加させていただいたことを、感謝するとともに、大会を通じて日本の伝統文化を正しく伝承していく大切さを、強く感じている次第です。

第三十二回平安神宮奉納

古武道演武大会参加結果

一般財団法人大東流合気柔術琢磨会代表理事

榎原 恒夫

がとうございました。

天気予報では前日まで雨模様の予想もありましたので心配しておりましたが、幸にも演武大会に於きましては秋晴れという模様でした。平安神宮様に於かれての演武は当会の者は初めての事で有り、参加者各位も緊張も持ちながら参加させていただきました。当会の種目は柔術に属する合気柔術と呼ばれる事になります。大東流の流儀も基本は剣技の理合から来ていると言われており、様々な技もたどれば日本刀を使いこなす為の身体作りが基本となっていると伝えられております。合気道として世間一般に知られている流派は戦後に実際には昭和になってから植芝盛平先生が創始されたと聞きます。当会大東流合気柔術琢磨会は武田惣角から直接指導を受け免許皆伝者となつた久琢磨の弟子団体です。当初は久琢磨達は植芝盛平先生から指導を受けその折には旭流とか様々に名乗られており、その後武田惣角から大東流として指導を受けており、その際の基本技に関しては植芝盛平先生からの指導の物で良いとされています。ある意味当会は現代合気道と古流大東流の両方の技を継承しているとも言えます。我々は古武道で有る様々な礼法、所作も伝えられており、また技も精神性の高い事も目指しますがそれが理想論や机上の論理に流れない様に、実際に武として通用する技術を継承してきております。今回も会員によりその様々な技法、関節技、急所技、柔術技、合気柔術技をそれなりにご披露出来たかと思われまます。

また、今回武徳会様の高段者審査会に於かれて合気柔術八段の段位を認定いただき範士八段位をいただき誠に感謝しております。私どもはこの合気柔術をもつて、日本武道の所作、振る舞いを含めた礼法など日本人の精神性を伝え、力に頼らない近代スポーツとは異なる日本人の知恵の技術を磨き後世に継承していきたいと存じます。

最後になりましたが今回も様々にお氣遣いいただき、お世話いただいた代表理事濱田鉄心先生、会の運営に携われた各先生方、事務局の塩田様、和氣様、本当にありがとうございます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

第三十二回平安神宮奉納 古武道演武大会を終えて

一般社団法人大日本武徳会理事
一心無双流居合道剣心会総師範

山田 文典

第三十二回平安神宮奉納古武道演武大会が盛会に開催できましたことを心からお祝い申し上げます。

また、今回、検証運営委員長の大任を仰せつかり、諸先生、参加皆様のご協力のお陰で事故なく目的を達成できましたことに厚く御礼申し上げます。

開催当日は、地球温暖化の影響が強い日差しに暑さを感じる晴天から始まり徐々に湿気を帯びた曇り空に変化する天候下にありましたが、それをも忘れさせるような厳肅な雰囲気の中、先生方の気迫に満ちた素晴らしい演武が繰り広げられ、立派な大会になったと思います。特に礼式の統一により厳格化が増しました。ご協力に深く感謝申し上げます。

本大会閉会式の中で、濱田鉄心代表理事は、平安神宮奉納は、明治の時代に大日本武徳会が創設の折、最初の演武会が平安神宮奉納古武道演武大会であったことを引用され挨拶をされました。令和の時代に生きる私たちは、百三十年の重みを感じると共にこの素晴らしい日本伝統武道を未来へ伝えていく重責を担っていることを感じた次第です。

次はいよいよ第七回世界武徳祭となります。全世界から武道家が結集する一大イベントの成功には、本部先生方、会員皆様のご協力が必要不可欠です。

今回の成功の勢いは、来年開催される第七回世界武徳祭と関連する一連行事へ向け意義ある大会となったと思います。

先生方、引き続きご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



大会終了後、大会ボランティアに従事してくれた当会参加剣士と共に

高段者審査会 合格者

【合気柔術】

八段 榎原 恒夫

【居合道】

八段 石本 一平

